

## ●どんなブースなの？

展示された剥製や標本・写真及び資料を見ながら、身近に生育している生きものを知りましょう。

剥製や標本にはそれぞれに説明がありますので、説明を読みながら歩いて、クイズに挑戦してみましょう。

## ・鳥類

生きものの姿や餌は環境に影響されています。

鳥のくちばしや脚はえものを捕まえたり食べたりするのに便利にできています。よく観察してみましょう。

## ・ほ乳類

茨城県には約30種類のほ乳類が住んでいます。

山にすむ獣(ほ乳類)は最近山は環境が変わってきていることから人の住んでいる畑などに現れるようになってきました。山の環境を守ってあげないとかわいそうですね。

なお、ニホンザルが生息しないのは北海道と茨城県の2県ですが、実は野生のクマや鹿もいないのが茨城県の特色です。



二ホンイノシシ



ホンドイタチ



ワシ

フクロウ



ガマ(ニホンヒキガエル)



ニホンマムシ

## ・は虫類、両生類

茨城県には約30種類のは虫類と両生類が住んでいます。

は虫類とはヘビやトカゲの仲間たちです。恐竜もこの仲間です。

は虫類は両生類が進化したものですが、子どものころから肺呼吸です。

山にはマムシなどのように毒を持ったヘビなどがいるので注意が必要です。

両生類はカエルなどがこの仲間です。

両生類は子供のころはエラ呼吸で、大人になったら肺呼吸になります。

## ・外来生物

茨城県は気候が温暖で多くの生物が住みやすい状況なので、外国からやって来たソウシチョウやハクビシン、アライグマ、カミツキガメ、オオキンケイギク、ミズヒマワリなどの外来種が増えていて、いろいろ弊害が生じていることも理解して下さい。

動物でも植物でも外来種が増えると、もともとの日本の動物・植物の生態系を壊してしまいます。

## ・植物

茨城県には2000を超える種類の植物があります。

シダ植物と言われるもの、種子植物と言われるものや地衣類と呼ばれるものがあります。

ドングリなどにもたくさんの種類がありますので展示されている標本でよく観察してください。

外来のいたずら者ハクビシン



## ●もっと詳しく知るために

(1) 茨城県内の自然について最近書かれた(入手しやすい)本などを読むことをお勧めします。

- ・『高校の先生がつくった 茨城の自然観察ガイド』茨城県高等学校教育研究会生物部編
- ・『日曜の地学8 茨城の自然をたずねて』天地一男編著(築地書館)
- ・『筑波山を歩く「水郷筑波国定公園管理員日誌」より』吉武和治郎(STEP)
- ・各種の図鑑やインターネット

(2) 外に出て、草木や昆虫・野鳥などの生きものを直接観察して下さい。テレビなどでは得られない本当の自然に気がつくことでしょう。